

ガラスパーティションが果たす、4つの社会的役割

① 仕切りながら、つながる

政府のガイドブックが挙げる課題は「物理の壁による交流不足」。ガラスは視線と気配を通したまま空間を分けられる——**壁の撤去とゾーニングを両立**する唯一の仕切りです。

② 光を、フロアの奥へ

16カ国7,600人の調査で、自然光など自然の要素がある環境で働く人は**生産性が6%高い**（Interface「Human Spaces」2015）。国際エネルギー機関の調査では**97.2%が「自然光は蛍光灯より快適」**。ガラス間仕切は窓の光を奥の席まで届けます。

③ 選べる働き方を支える

多様な場所を選んで働く人はやりがい（ワーク・エンゲージメント）も創造性も高い（三井デザインテック×東京大学・2020年）。集中室・会議室・オープンをガラスで区切れば、「**選べるオフィス**」が明るいまま作れます。

④ 変化に追従する資産

可動間仕切は**組立・解体・移設ができる**建材。組織改編やレイアウト変更のたびに壊して捨てる造作壁と違い、動かして使い続けます。変化の速い時代の、サステナブルな選択です。